

職場内研修で「森林施業」を学ぶ

平成26年7月25日、浦河町にある西舎森林事務所部内のトドマツ人工林で、森林官や若手職員16名を対象として、森林の蓄積を把握する技術を習得すること等の研修を実施しました。

今回の研修では収穫調査（立木を伐採又は売り払う際に行う収量調査）や、地況・林況調査（決められた区域内にある森林の蓄積を知るための調査）などの森林調査を実施する際に利用できる「ビッターリッヒ法」を学びました。ビッターリッヒ法とは、胸高断面積と平均樹高により森林の蓄積を求める方法です。この日は、スリット板を用いて簡易に森林の蓄積を把握する研修を行いました。

研修は4班に分かれて行いました。森林官の多くが調査業務でビッターリッヒ法を使用していることから、慣れた手つきで計測を実施しましたが、同じ森林を測ったにもかかわらず、調査結果は意外にも各班バラバラとなりました。この後、講師の説明等から調査ポイントを多く取ることで正しい数値に近づくとの解説がありました。

この後、調査結果を元に間伐方法を検討したり、別の森林に移動して人工林を複層林化する際の技術的な課題について現地の森林をモデルに様々なパターンを検討しながら話し合いを行いました。

今回の研修を終え、森林調査や森林の施業方法などについて参加者全員が再認識することができたと感じられました。今後も更に研鑽を積み、業務に活用してほしいと思います。



ビッターリッヒ法による森林調査の様子